① 親の養育のまずさから，自我が未成熟で，社会性に乏しく，劣等感が強く，神経質な性格が形成された。

② 学習や友達集団の中での社会的技術にいきづまり，自分をよく見せようとする気持ちが強く働くために劣等感が生じ，その苦しみと不安から抜け出せず，思考も混乱し，登校拒否を起こしている。

(6) 指導方針

① 本人に対して

ア．自律訓練法の実施により，本人の不安や緊張を除去し，情緒の安定を図る。

イ．カウンセリングを通し自分の問題（学習に対し到達目標が高すぎる。社会性が欠如しているなど）に気づかせ，さらにその問題を日常の生活を通し，いかに解決を図っていけばよいか洞察させる。

② 両親に対して

ア．カウンセリングを通し，両親自身の情緒の安定を図らせる。

イ．外面をよく見せようとするしつけや家庭教育を改め，本人の気持ちを理解し，愛情を基盤とする暖かい人間関係を築かせる。

ウ．自主性や社会性を養う機会を多く与え，子供の自我の成長を図るよう親が努力する。また，親は子供を，あまり子供扱いにせず，子供に任せる。

(7) 指導経過

回	本人に対するカウンセリング	指導方針とのかかわり	母親に対するカウンセリング
① 6月	○ 生活状況について話をきく。 • 数学の授業での緊張が大きく，腹痛・頭痛が起こる。 • 体育の授業は，自分が下手なのでやりたくない。 • 自分には人より劣っている部分がある。その部分を人に言われるようで学校に行けない。 • 弟とけんかするたびに登校できないことを言われる。家の人は自分の気持ちを理解してくれない。(つらそうな表情でこたえる) ※ Y－G検査・GAT・カラーテスト・自律訓練簡便法の実施	㊑ よく来所してくれたこと，本人の悩みや不安について話させる。 • 家庭及び学校生活の様子をきく中で主訴についてふれる。 ㊊ 子供の様子をきき出し主訴内容を明確にする。 ○ 明らかにされた問題点 • 家庭の養育上の問題 • 本人の性格及び不安状態 • 学校不適応(学習及び友達) ○ 今後の指導方針の内容 • 登校刺激をやめる。自律訓練法を家でも実施する。養育の改善等。	○ 主訴内容についてきき出す。 • 朝，起こしに行ってもふとんの中で体をふるわせている。 • 友達が自分より大人に見えるといって自信をなくしている。 • 数学と体育のある日は腹が痛いといってよく早退した。病院の診断は「神経性胃炎」であった。（どうして娘がこのようになったか理解できないという表情で話す） ※ 親子関係診断テスト及びエゴグラムの実施 ○ 今後の指導方針について話す。
② 〜 ⑤ 7月	○ 最近の状況について話をきく。 • 夜はねむれるようになった。 • 2か月間生理が不順であったが正常に戻った。	○ 休学手続き・自律訓練法により情緒が安定してきた。 ㊊ 母親の変容をうながす。 • 母親の情緒を安定させ，外見をよく見せようとする態度を改めさせる。	○ 生活の様子をきく。 • 自律訓練法は毎日実施。 • 子供のことで職場の人から慰められる。そのことがつらい。 • 数学が嫌いなことは自分に